

175

2147

奉
還

衛生
軍事
法律

件番受

日本赤十字社救護班派遣ノ件

一四二五號

警務局

大臣

次官

官

決

官

官

主務局長

受領出頭

大正三年十一月九日

十月九日
月廿九日



2148 2149

一枚度班ノ編輯ハ左ノ如シ
 一枚度班(班長) 一、一枚度書 一、
 一枚度班長 二、一枚度系度 二、
 一枚度班ニ要スル経典ニ就地ニ於テハ、
 毎半外ニ要スル社ノ又系ニ係ス

青島に於て敵、傷病者約四百名ヲ
 収療、為日本赤十字社救護班一隊約百人
 班ヲ派遣セリ、度々条左安、通達
 通條お成度

日本赤十字社長、所定按

其、社救護班但名護婦、班ヲ青島
 派遣シ、獨立第十八師團長、指揮
 ヲ受ケシムヘシ

追テ編成地誌編成完結日ヲ
 報告スヘシ

次官より泰謀部長、通牒桒
 別紙一通日本赤十字社長、通牒相
 成條承よりお成度儀也
 近テ戦地に到着時、其地より又一通報が改行

第一三四

行

陸

軍

電報譯

五月

八日

午前午後

九時

八分

著發

第 四 二 號

青島内、傷病者、總督府病院

發信者

飯島

外、四箇病院、約四百人収療し

見られ、確實に報告し、刻

に

2152



閣

内閣



軍事部
第五

件番受

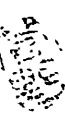
改正第一四二五編
名日本赤十字社
日本赤十字社救護院
所造ノ件

大臣

次官



参事官



主事官



決

参事官

裁

主務局長

主務局長

主務局長

主務局長

主務局長

受装番

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

大正

次友より日本赤十字社、通條梅
 友第一二三四通條、救護班、
 来十八日門司港出帆、曲五富丸、乗
 船、豫定、来十七日迄、同市、到り
 陸軍運輸部本館門司出張所、就
 中乗船、関する区及、更々レナラレ度
 候也

次官より、参謀次長、通條梅
 友第一二三四通條、日本赤十字
 社救護班、左記、通條成、旨、同社、
 より、出帆、之、候、通條成

並供條承方相成度供也

左記

所管救護班名

編

成

地

月

成完

二月十二日

福岡支部 第廿四救護班

福岡市須崎支店日本赤十字社福岡支部内

十一月十六日

佐賀支部 第廿八救護班

佐賀市佐賀縣廳内日本赤十字社佐賀支部内

十一月十六日

本縣護班二二班、付救護理事副長一名、救

護看護婦監督一名、救護書記二名、通譯

五名、使丁十名ヲ附屬ス

(予我々赤十字社及び通譯等トス)

陸軍

救第一三六三號

大正三年十一月十日

日本赤十字社長子爵花房義徳



陸軍大臣岡市之助殿

歐發第一一三四號ヲ以テ看護婦且哉
救護班二個青島へ派遣ノ義御命
令ニ依リ左記ノ通り救護班ヲ編成
可致候間此段及御届候也
左記

所管 救護班名

編成地

編成完了日

福岡支部 第四救護班

福岡市須崎町日本赤十字社福岡支部内

十一月十六日

2155 2156

救第一三六三號

大正三年十一月十日

果赤十字社長子爵花房義貞



陸軍大臣岡市之助殿

歐發第一一三四號ヲ以テ看護婦組織
救護班二個青島へ派遣ノ義御命
令ニ依リ左記ノ通り救護班ヲ編成
可致候間此段及御届候也
左記

所管 救護班名 編成地 編成完結日

福岡支部 第廿四救護班 福岡市須崎町日本 十一月十六日

2155 2156